

自 2024 年4月 1日
至 2025 年3月31日

2024年度 事業報告書



公益財団法人ハーモニセンター

目 次

2024年度の概況	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営	2
1.1. キャンプ	
1.2. 日帰り企画等キャンプ以外の自主事業イベント	
1.3. 蓼科ポニー牧場	
1.4. 小貝川ポニー牧場	
1.5. 相馬ポニー牧場	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理.....	8
2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)	
2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)	
2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)	
2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の5年目)	
2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及.....	12
3.1. 「馬という領域」ミーティング	
3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業	
3.3. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供	
4. 川べり環境の整備及び活用の推進.....	13
4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム	
4.2. 河川騎馬パトロール	
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進.....	14
5.1. モンゴル大草原乗馬交流	
5.2. 日独青少年相互交流計画	
5.3. 日独軽乗交流 2025	
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信.....	15
6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行	
6.2. WEB広報	
7. その他	15
7.1. 規程変更と新設	
7.2. 馬の管理	
7.3. カウンセラー・職員等の研修	
7.4. 会議等	
7.5. 法人事務	
7.6. 賛助会員	

2024年度の概況

2024年度のハーモニセンターは、安定した運営を行った1年とすることができます。目立った変化は多くありませんが、コロナ禍の影響から回復する過程で再開したり、新たに取り組むことになった国際交流事業や医療的ケア児、社会的養護下にある子供達を対象とした事業等、幅広く拡大しました。

ポニーキャンプ®は、蓼科ポニー牧場のリニューアル工事の影響で冬期の一部のキャンプが行えなかったものの、新しいタイプのキャンプも追加し、結果として前年度を上回る参加者を得ることができました。また、キャンプのフィールドを開拓するための下見も行い、次年度に新たなキャンプを生み出す準備を進めました。

蓼科ポニー牧場では、前年度の新宿舎完成に続いて、2025年春の完成を目途に食堂等のリノベーション工事が行われています。ハーモニセンターの旗艦シップ施設として、活動の質を高める改善を続けます。不登校児支援プログラム「ひだまりファーム」は、信州型フリースクール認証制度の認証を受けることができ、より安定した形で進めることが可能になりました。

小貝川ポニー牧場では、地の利を活かしてポニーと川のプログラムを組み合わせたワンデイキャンプを行うなど、利用者のニーズに応えたプログラムが展開されました。

相馬ポニー牧場は正式な閉場に向け、クロージング・プロジェクトチームが2025年春に東京・相馬の2会場でクロージングイベント行うべく、準備を進めました。閉場後の使途についての交渉を続けており、有効活用を目指します。

受託事業では、板橋区こども動物園が指定管理の最終年でしたが、2025年度からの5年間の指定管理も引き続き担うこととなりました。相模原麻溝公園ふれあい動物広場と碑文谷公園こども動物広場では、新たな5年間の指定管理期間が始まりました。指定管理制度が法制化され20年以上が過ぎ、自治体による民間活力の活用がより広く一般化する中で、より独自性のある運営を求められつつあることを強く実感する1年でした。

近年、夏の暑さの影響を受ける期間が長くなり、気候変動をより強く感じるようになっていますが、それぞれに工夫を凝らし、地域の人々に愛される運営を行いました。

各事業所での実習生の受け入れや移動動物教室を通じて、自治体や教育機関等との連携も広く行われました。これらは単に活動を提供するだけでなく、動物介在活動の価値を広く知っていただく機会となっています。

国際交流については、2023年度に5年ぶりに再開したモンゴル大草原乗馬は2コースで実施、日独青少年相互交流計画は、ドイツ青年の受け入れから直接交流が再開しました。2025年度には日本青年のドイツ派遣を予定しています。また、他の事業と同様にコロナ禍の影響で中断していた日独軽乗交流も行われ、7人の子供達に加えカウンセラー1名が参加しました。

2024年度は多くの事業において参加者数の増加や活動機会の拡大が見られ、施設改修、プログラム改善、新規事業への取り組み、多方面での連携強化など、組織力の向上と事業内容の充実が着実に図られた一年であったと言えます。

1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

1.1. キャンプ

今年度も、ポニーキャンプを中心に、さまざまなキャンプを実施した。

前年度に始めた対馬キャンプは泊数を増やして実施、鳴子キャンプは夏季、冬季の2回開催とした。また、夏前の新規参加者向けのおためしポニーキャンプと山梨県韮崎での野外キャンプを新たに追加した。そのため、蓼科ポニー牧場のA棟及び食堂のリニューアル工事のために冬季のファミリーキャンプ2コース、週末キャンプ1コースを中止したにもかかわらず、前年度と同数の35コース(ポニー20、ファミリー5、八ヶ岳1、スキー3、スケート1、野外5)のキャンプを行うことができた。

受託キャンプと助成金を得て行うキャンプ(里親子対象のキャンプ)を合わせると、合計で39コースを実施。春休みキャンプがすべて定員に達するなど、全体としてどのキャンプにも多くの参加者を得ることができ、参加者総数は1,346人と前年度よりも増加した。

また、次年度以降につながる動きとして、全国乗馬倶楽部振興協会の助成金を得て、新規キャンプを開拓するための下見を行った。2025年度には、その中から木曽、宮崎、遠野という馬と関わりの深い3つの地域でのキャンプを実施する。



1.2. 日帰り企画等キャンプ以外の自主事業イベント

HAC(ハーモニー・アクティブ・チャレンジ)では、普段は動物広場勤務の職員が企画して日帰りイベントを実施したり、コロナ禍以降初めてとなる勝浦での1泊のイベントを開催するなど新たな動きがあった。前年度に引き続きカウンセラーが主体となって行うイベント「ええじゃないか(旧ハモニイランド)」も開催し、キャンプの参加者やその保護者など合わせて90名を超える参加者を得ることができた。

また、小貝川ポニー牧場では、複数回のワンデイキャンプを行ったほか、夏に助成金事業として実施している里親子キャンプに今まで参加したことのある家庭を対象としたワンデイキャンプも新たに行った。気軽に参加できる日帰りのイベントを行うことで、宿泊型キャンプとは異なるニーズをカバーするとともに、キャンプなどに参加したことのある方々が再び集う機会を提供することができた。



1.3. 蓼科ポニー牧場

前年度の新宿舎に続いて、蓼科ポニー牧場のシンボリック建物であるカナディアン・シーダー・ハウス(A棟・食堂)のリノベーション工事が1月に始まった(2025年4月下旬完成予定)。また、前年導入したキャッシュレス決済は約25%の利用者に使われており、認知が高まってきた印象がある。こうした改善によって、来場者がより利用しやすい牧場への転換を進めてきた。

長期休暇期間のキャンプや週末の宿泊事業・乗馬レッスンだけでなく、不登校児支援プログラム「ひだまりファーム」、牧場を拠点とした野外保育「牧場ようちえん ぽっこ」もあり、牧場には平日も含め、年間を通じて子供の声が響き、笑顔が見られる。蓼科ポニー牧場が、ポニーをパートナーとして「生きる力」を育む日常的な居場所として機能していることを実感する。

乗馬レッスン・引き馬の利用者も増え続けている。特に乗馬レッスンは、前年度の1,806鞍から2,034鞍へ大きく伸びた。10年前(2015年)は、レッスン900鞍、引き馬748鞍だったことから考えると、キャンプの場所以上の存在として牧場が広く認知され、利用者のニーズに応えた運営ができていると手応えを感じている。



A. 宿泊の牧場利用

前年度の新宿舎完成を受け、宿泊利用者が増えた1年だった。動物広場単位で実施するキャンプは、一部を合同キャンプとすることで開催回数は減ったが、利用者数には変わりがなかった。また、大学生の馬術部・サークルなどの研修合宿の受け入れが増えたほか、地域のフリースクールのキャンプ受け入れもあり、新たなつながりが生まれた。

1月からカナディアン・シーダー・ハウスのリノベーション工事が始まり、期間中のキャンプ受け入れは一

時中断したが、全体として利用者数への影響はなかった。

自主・受託事業ポニーキャンプ:19回(53泊) 自主事業ファミリーキャンプ:6回(8泊)
広場キャンプ:5回(10泊) OBOG会:8回(8泊) ライダーズカップ合宿:2回(5泊)
他団体利用:6回(12泊)

B. 研修

職員の馬取扱い・乗馬技能向上及び、全国乗馬倶楽部振興協会の乗馬指導者資格者を増員すべく、前年度に導入した法人内乗馬技能検定を、この年度も年2回実施した。難易度の高いグレードにも合格者が始り、今後の受験者の取組みに期待したい。

また、通年で各現場を巡回して研修を実施した。職員の技能向上が効果の高いリスクマネジメントのひとつとなることを期待し、法人内で馬取扱いの共通認識を醸成することを目指した。このほかにも、職員が自主的に蓼科へ来場し、乗馬技術を磨こうとしている様子も多く見られた。

さらに、今年度から企業研修の受け入れを実施。馬との関わりを通して、コミュニケーションの本質を捉え、日々の仕事に生かしていくことに期待した研修を他企業と連携しながら実施した。

職員・カウンセラー宿泊研修:8回(22泊) 巡回研修:4回 企業研修:2回(3泊)

C. 日帰り団体の牧場利用

立科白樺高原ユースホステルより「馬の学校」(障害児ファミリー)14名(2回)、つなしまみらい広場より26名(1回)を受け入れた。

D. 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)

小1～中3を対象に月2回実施した。参加者は地元中心であるが、東京からの参加者もいる。また、高校生OBがボランティアとして参加するほか、年間を通じて多くの活動に父兄が関わっている。

実施回数:22回 のべ参加者:507名

月謝制:¥6,000/月

行事:前・後期保護者会/ライダーズカップ/牧場フェスティバル/クリスマス会/成果発表会など



E. 移動乗馬教室

5・10・11月にJRAの助成を受け相模原・調布エリア、茅野市内の保育園・小学校を訪問、12月には帝京科学大学のホースセラピー乗馬会へ馬を派遣した。

5月26日 JRA相模原 3頭

10月27日 JRA多摩 4頭

11月11日～15日 JRA蓼科 10か所訪問 のべ60頭

12月1日 帝京科学大学乗馬会 1頭

F. 牧場レッスン・引き馬

レッスン利用者は年々増えており、2023年4月に開始した牧場会員制度についても、30名が会員登録している。引き続き利用してもらえよう、利用者のニーズ把握や、サービスの質の向上に努めた。

レッスン2,034鞍、引き馬1,254鞍

G. その他

- ・ 第11回ポニーライダーズカップ

10月19日・20日に「ポニーライダーズカップ」を開催し、NPO法人EPOの子供達も含め、総勢99名が参加した。

- ・ ひだまりファーム

不登校児の居場所事業「ひだまりファーム」を38回実施し、のべ320名が参加した。継続的に参加している子の弟・妹など兄妹児が参加をし、参加人数は前年より増加した。

- ・ 牧場ようちえん ぽっこ

牧場施設を利用した「牧場ようちえん ぽっこ」の活動が年間を通じて行われた。

- ・ ポニーステイ

昨年度に引き続き、長野県伊那市立伊那小学校にクリスターを無償貸与した。

2025年3月5日にポニーステイ期間が終了し、帰厩した。

- ・ 牧場フェスティバル

11月16日に牧場開放事業「牧場フェスティバル」を開催した。596名が来場し、乗馬体験や餌やり体験、ワークショップなどを楽しんでもらった。

- ・ 羊の毛刈りショー

ここ数年続けて実施している毛刈りショーも、ひだまり・ぽっこの子供達の恒例イベントになり、地域の方達も招待してのイベントになった。参加者32名。

- ・ 競技会

主にTJPCの子供達、キャンプ参加者・キャンプや動物広場OBOGに声掛けをし、競技会に出場した。
長野ホースショー：参加者12名



1.4. 小貝川ポニー牧場

A. 日帰り団体の牧場利用

野外活動機会を求める声は引き続き多くあり、複数の団体の日帰り利用があった。

- ・ 田園調布ワンデイキャンプ

田園調布在住の方を対象にワンデイキャンプを実施。午前中は乗馬練習や厩舎掃除、馬とのふれあい体験、午後は小貝川での川遊びやポニーを川に入れての乗馬などを実施した。

6回企画したが、内2回は台風の影響を考慮して中止した。

実施回数:4回 のべ参加人数:77名

- ・ 東京都ひとり親家庭福祉協議会

東京都在住のひとり親の家庭を対象に、不足しがちな体験活動を補うために、午前中は乗馬体験、午後は河川敷の乗馬散歩、焼き板作り・焼き芋作り体験などを行った。また、本年度より川でのプログラム実施の要請をいただき川遊びプログラムも実施した。

実施回数:3回 のべ参加人数:98名

- ・ 茨城県LD等発達障害親の会・星の子

LD等の障害を持つ方とその保護者の団体で、20年近く継続して利用していただいている。乗馬体験のほか、川でカヤックの操船体験も行った。近年の夏の異常気象の中での実施は危険と考え8月の実施は中止、代替の12月は気温が低いため、川遊びを取りやめて馬場での操作技術確認を意識しつつジムカーナ形式を取り入れた。

実施回数:3回 参加人数:43名

B. ポニー教室

小1～中3を対象に、土曜日クラスと日曜日クラスの2つの教室を月に2回ずつ開催した。定員は各クラス35名としているが参加希望が多く、5月の時点でキャンセル待ちが生じ、年度末に至っても順番待ちは解消していない。

参加者は取手市や県内に留まらず、都内や近県からも継続して通っていただいている。以前より教室の回数を減らしているが、教室のない週末にレッスンの利用をしていくケースが増えた。また、活動の場として自身の教室のない週末にも来場し、馬の世話・接客補助・厩舎清掃などに取り組む参加者も少なくなかった。教室の卒業生がボランティアとして参加する他、保護者や教室に入る前の兄弟にも牧場に関わり、対象参加者の家族も関わる異年齢交流は益々厚みと奥行きが深くなっている印象がある。

また、教室参加者にとって牧場は安心できる居場所のひとつとなっており、学校に行きづらい子供の受け皿として、教室の無い平日の牧場作業の手伝いも継続して受け入れている。

実施回数:土曜日クラス24回 日曜日クラス24回 のべ参加者:1,146名

月謝制:取手市内¥5,000/月・取手市外¥6,000/月

行事:教室の他、夏季合宿@蓼科・夏季合宿(ライダーズカップに積極的な利用者が対象)、ライダーズ直前合宿、ライダーズカップ、クリスマス会、卒業を祝う会、保護者会を実施。

C. 移動乗馬教室

移動乗馬教室のポニーと馬運車の提供拠点として活動した。ララガーデン川口・亘理いちごっこ・水の

郷さわら・河内町移動乗馬(ポニースクール in 河内)・二子玉川ライズ・世田谷区医療的ケア児等支援事業・河内ドリームフェスティバルなどに前年度に引き続き派遣したほか、全国乗馬倶楽部振興協会の助成金を受けて鳴子・南相馬へも派遣し、馬のいる時間と体験を届けた。

また、新たに那須こどもの家へ派遣したほか、【多摩川を歩こう】では午前中に地元の保育園までポニーを連れていき馬のいる時間を提供、午後に台風の影響で中止したワンデイキャンプの申込者を対象に大田区田園調布の多摩川沿いをポニーに乗って移動する機会を提供した。

実施回数:25回(複数日程のものを含む) 参加者:のべ6,572名



1.5. 相馬ポニー牧場

相馬ポニー牧場クロージング・プロジェクトチームにより準備が行われ、2025年4月20日【東京】と、5月31日～6月1日【相馬ポニー牧場】にクロージングイベントが行われることが決まった。

閉鎖後の活用については引き続き検討を進めており、譲渡や売却を含むさまざまな可能性を検討し、有効活用を目指したい。

2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理

2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)

コロナ禍により中止をしていたポニーまつりを5年ぶりに開催した。天気にも恵まれ、約35,000人の方楽しんでいただいた。また、新たな取り組みとして、医療的ケア児(中学生以下)及びその家族を対象としたスペシャルプログラムを4回実施した。安全に実施できるよう医療者の協力を得て、1家族30分というゆったりした時間設定をしたので、参加した24家庭のみなさんに満足し、楽しんでもらった。

ポニー教室(個人)や動物クラブの活動を卒業しても、子供達にとっての居場所であり続けたいという思いで卒業生のボランティア「碑文谷スーパーサポートチーム」を設けた。参加頻度はさまざまであるが、動物広場の運営に力を貸してくれている。

ポニー教室(個人)については、利用者アンケートにあった「応募をオンラインでできるようにしてほしい」という声に応え、オンライン応募を可能とした。

この年度は、コロナ禍によって中止をしていたプログラムを再開させつつ、初めてのプログラムを様子を見ながらゆっくりと進めたという1年であった。2025年度は、利用者の声に耳を傾けながら、より活動を充実させていきたい。また、7月に亡くなった「リン」に代わる、新しいふれあい犬の導入も予定されている。安全に十分配慮しつつ、犬の選定や調教に励みたい。



所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m ²
飼育動物	ポニー(6頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬)・小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 医療的ケア児と家族のためのスペシャルプログラム 動物クラブ 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(エサあげ体験、クイズラリーなど) 碑文谷ポニーキャンプ(現役生向け・卒業生向け)

2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)

この年度は、夏場に第一馬場の改修工事が行われ、気温の高い日も続いたため、子供達には活動機会の制限が多くあったが、互いに譲り合いながら活動を行うことができた。イベントについては、4年生以上を対象にした、小貝川ポニー牧場での「川遊び遠足」、同じく牧場を利用した「マラソン大会」を追加し、充実を図った。これらも含め、予定していたイベントはすべて実施することができた。

介護予防事業として受託する65歳以上を対象とする「シニア版ポニースクール事業」は、悪天候による日程

変更はあったが、4期(1期3回)とも無事に実施することが出来た。

3月には「日独軽乗交流2025」を実施し、7名の子供達が参加した。ドイツ(シュタインフルト郡ラドベルゲン)の指導者から直に軽乗を学んだほか、現地の子供達とも交流し、大会にも参加し演技を披露した。期間中にはホームステイも行い、軽乗のみならず、ドイツの文化を直接に感じる経験も得ることができた。



所管課	葛飾区教育委員会事務局地域教育課
面積	3,263 m ²
飼育動物	ポニー(13頭)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学校1年生から中学校3年生 団体:区外を含む中学生以下の団体 障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止) イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等 移動乗馬教室 「葛飾区こどもまつり」「かつしかスポーツフェスティバル」 介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回) 葛飾ポニーキャンプ

2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)

この年度は、5年間の新たな指定管理が始まった。自主事業により積極的に取り組むことが求められるようになり、えさやり体験や、大人向けの「健康づくり乗馬」、ポニーボランティアなどで、料金の見直しを含む改良を加えた。土日祝日の晴天率の高さにも助けられ、参加者数は順調に推移した。特にえさやり体験は、料金値上げにもかかわらず利用者数は昨年よりも増加し、体験型のプログラムが求められていることをさらに実感した。

登校をためらいがちなこどものための支援プログラムである「はらっぱ」を本格的に開始したほか、ウシの搾乳体験に代わるものとして導入したポニーのブラシ掛け体験も多く利用があった。また、ポニーライダーズカップや対馬キャンプ、さらにはポニーボランティアの



OBキャンプなど、団体の自主事業への参加を積極的に促し、好評を得た。

このほか、川崎市市政100周年の記念事業の一環で、川崎市立夢見ヶ崎動物公園で10回の移動動物園を実施する機会を得て、神奈川県内の他の自治体に動物とのふれあいの大切さ、相模原麻溝公園動物広場のすばらしさもアピールすることができた。今後もこのような機会をとらえ、指定管理者制度のメリットを生かしつつ、ハーモニセンターのホスピタリティをアピールする機会を作ってゆきたい。

所管課	相模原市環境経済局公園課
面積	15,000 m ²
飼育動物	ポニー(15 頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・リスザル・ミーアキャット シマリス・ハイルックス・シカ・プレーリードック・ウサギ・鳥類(クジャク・文鳥・チャボ・オシドリ等)
主な事業	ふれあいコーナー・展示コーナー・ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(市内施設及び団体対象) 動物フェスティバル(年2回)等各種イベント さがみはらっこポニーキャンプ・ポニーボランティア合宿

2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の5年目)

指定管理期間の最終年度ということで、まとめの一年となった。期間中にはコロナ禍もあり、大きな影響を受けたが、この年度までにおおよそ回復し、新たな取り組みを行うこともできた。

日常的に運営する通常プログラムや産官学民の共同体制は継続して行い、来園者へ安定したプログラムの提供を行った。一昨年度に始めたこども動物クラブ向けの夏休み期間の夜間プログラム「ナイトズー」と年末年始の「焚火イベント」も回数を重ねるごとに参加人数が増え、内容も充実した。また、指定事業のポニー教室も年1度から2度へ頻度を戻すことができた。

指定管理期間で2回目となった「ZOOパークフェスタは」、天気に恵まれたこともあり、のべ参加者数を大幅に伸ばすことができた。また、近隣商店街や教育機関、福祉施設、公共施設との協働プログラムもいっそう充実し、参加者から好評を得た。

年度半ばには次期指定管理者の選定が行われ、無事、指定管理者として次の5年間を担うこととなった。引馬の対象年齢の引き下げや、こども動物クラブにおける馬プログラム実施、親子で楽しむ英語リトミック教室の定期実施など、新たな取り組みも加えながら、よりブラッシュアップし、安全性や利便性を考慮した運営を常に心がけていきたい。



所管課	板橋区土木部みどり公園課
面積	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ²
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい・ヤギの屋根のぼり、橋渡り・モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬・ポニーの馬車 こども動物クラブ・ポニー教室、親子ポニー教室・出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・公園祭り・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画・公園清掃、樹木管理

2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

上千葉砂原公園ふれあい動物広場は、地域の人たちが気楽に立ち寄ることのできる動物広場として愛されている。夏場は高温によりプログラムが中止となることもあり利用者が減る傾向にあるが、気候がよい期間は、土日祝日に限らず、平日も含め多くの方に訪れていただいた。

ポニー乗馬は複数回利用する子どもも多く、利用者数が伸びた。また、ふれあいコーナーは、混雑時に行う整理券による入場制限の回数は減ったが、全体の利用人数は減っておらず、平日にも利用者が分散していることが分かる。ふれあいコーナーは大人も利用できるため、幅広い世代に人気を得ている。

動物愛護クラブは、単に子供達が動物にふれあう機会に留まらず、命の大切さを学んだり、異年齢交流をするよい機会となっている。人気も非常に高く、申し込み当日は開門前から受付を待つ列ができ、すぐに定員に達した。参加者は土日や放課後などにやってきて、熱心に活動に取り組んでくれた。

また、隣接する東京都立農産高等学校の動物取扱に関する実習事業の受け入れも行った。



所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m ²
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・オカメインコ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬)・小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間)・動物クラブ・各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ・中学生職業体験の受け入れ

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3.1. 「馬という領域」ミーティング

この年度は、7月6日に馬事公苑で、2月15・16日に国立オリンピック記念青少年総合センターで、2回の「馬という領域ミーティング」(主催:馬という領域ネットワーク)が行われ、ネットワークのメンバーとして運営に携わるとともに、7月には発表の機会を得た。どちらも運営スタッフ・ボランティアを含む100名以上が集う盛会となり、運営にはハーモニーセンター、ハーモニカレッジのカウンセラーも多数参加した。

このミーティングでの出会いが、新しい馬に関わるキャンプが生まれるきっかけとなるなど、少しずつ成果と呼べるものが出てきている。今後も継続的に運営に携わり、馬という領域の活性化を図りたい。

3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会より助成金を得て、神奈川県相模原市・福島県南相馬市・東京都多摩地区・長野県茅野市の40施設を訪問。あわせて「人と馬のふれあいによるストレス軽減」調査研究のため3か所の施設を訪問し、乗馬体験を提供した。

蓼科ポニー牧場では「牧場フェスティバル」を11月16日に実施、相模原市では5月26日に「ポニー乗馬×移動式あそび場 in 若葉台」を実施した。

相模原市:5月26日～12月23日 児童養護施設や支援学校など16か所を訪問

多摩地区:6月23日～11月19日 小学校や商店街など7か所を訪問

南相馬市:12月4日～12月8日 小学校を中心に7か所を訪問

茅野市:11月11日～16日 不登校児対象事業含めて9か所を訪問

調査研究:3月20日～12月12日 特別支援学校や公園など3か所を訪問

3.3. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供

大学や専門学校、公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会等の求めに応じて、移動乗馬教室や障害のある子供を対象としたポニー教室の運営など、馬が介在する活動の運営ノウハウを伝える講習・授業を提供した。また、各事業所において、専門学校等の実習の受け入れを行った。

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会「馬の多様な利活用を推進する講習会開催等事業」として、9月3日(講習・実習)、28日(本番)に多摩川河川敷(せいせきカワマチ)において、多摩大学・松本祐一ゼミと共に一般社団法人聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント(事務局:京王電鉄株式会社)の協力を得て、「地域のイベントに馬を持ち込んだら何が起こるのか」を行った。また、11月4日には調布市深大寺小学校において、前年の移動乗馬教室実施でつながりのできた調布市健全育成推進地区委員会の協力を得て、「小学校でポニーを飼うために必要なことを探る」を実施した。今後も、このような形で連携先を増やすと共に、講習会視察委員からいただく評価を今後の事業に活かすことに努めたい。

今年度新たに東京都こどもスマイルムーブメント「企業・団体と区市町村による協働事業」に応募したところ、小平市とのマッチングが成立。11月10日に行ったワークショップで子供達から集めた意見(動物広場名称、呼ぶ動物、こどもスタッフの仕事)を基に、1月19日に1日動物広場「みんなでふれあいどうぶつえん」を実施した。

当日はポニースクールかつしかから駆け付けてくれた子供達の力も借りて、午前・午後各36名の小平っ子スタッフと共に1,000名を超える来場者に対応。短時間のレクチャーで運営の一部を担った子供達の柔軟性と、事後アンケートに示された感度のよさに関係者一同満足感を得た事業となった。

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム

例年好評を博しているカヤック教室を実施。大雨の影響を受けて中止した回もあったが、参加者は延べ76名を数えた。酷暑が定番化する昨今は、夏季のプログラムとして身近な川でのカヤックや水遊びに注目が集まっていると実感している。コロナ禍を挟んで中断していたが、昨年復活したEボート大会は、(NPO)小貝川プロジェクト21と共同で企画するも、当日の雨で中止となった。参加希望者が40名を超え、ポニースクールかつしかからのエントリーもあり、ハーモニセンタ―としての最大の参加者が見込まれていただけに悔やまれる。

田園調布の子供を対象としたワンデイキャンプ、夏季のポニー教室、茨城LD等発達障害親の会 星の子の事業などでも、川遊びを実施。ボーイスカウトと東京都ひとり親家庭福祉協議会から川遊びのプログラムの団体利用の申し込みを受けた。また、一環として「河川とプールの違い」「堤防の重要性」など、水辺の安全に関するレクチャーを行った。特に、川の中でポニーに乗るプログラムは人気を博した。

活動場所の保全と河川敷整備を目的に、ゴミ拾い、草刈り、ポピーの種蒔き等を随時実施。特に河川が増水した後は、放牧場やその近辺の活動場所に堆積したゴミや木くず等の撤去をポニー教室の参加者や保護者の手を借りて行うことが慣例となっている。作業を通じて、子供達は川の力とゴミ問題について楽しみながら学び、同時に保護者との交流を深めることにつながった。



4.2. 河川騎馬パトロール

茨城県教育委員会と共同で、河内町の利根川沿いの広大な河川敷サッカーグラウンドをお借りして河川騎馬パトロールを6月と11月の2回実施した。ポニーの手綱操作とバランス練習の後に外乗をし、河川パトロールを行った。本プログラムも10年前から実施しており、河内町のリピーターが多い。

また、ポニー教室や乗馬レッスンでも小貝川の河川敷を外乗しながら、四季折々の草花や野生の鳥や生き物を馬上から眺めつつ、川の水量やゴミ等の漂着物を確認し、倒木や落ちそうな枝を除去している。日頃から活動場所としているフィールドだからこそ、僅かな変化に気付くことができおり、安全確保に役立っている。

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5.1. モンゴル大草原乗馬交流

コロナ禍の影響で休止していたモンゴル事業を風の旅行社と連携して昨年度に再開、この年度も「大草原騎馬トレッキングと遊牧民生活体験6日間」として継続実施した。昨年度はポニースクールかつしかと小貝川ポニー牧場のポニークラブの子供達を主な対象として、1コースのみの開催だったが、この年度は「ハーモニーセンターの活動に参加している子供」に対象を広げ、2コース(どちらも16名参加)で実施した。

5.2. 日独青少年相互交流計画

コロナ禍でストップしていた直接交流が再開し、10月14日～26日にドイツ青年15名(+引率2名)が来日。カウンセラーを中心に日本側も多くの青年が参加し、交流を楽しんだ。個人や企業の協賛を得たり、懇親会用の飲み物等の物品の提供も多く受けることができ、受け入れにかかる支出を例年の半分以上に抑えることができた。長年続いてきた事業の特徴を生かして、協力者を募り、今後も継続する意義のある事業としていきたい。

また12月21日には昨年度に引き続いて、ドイツ国際平和村の日本人スタッフによるオンラインイベントを開催し、17名が参加した(参加費は全額ドイツ国際平和村に寄付)。このイベントの参加者から、ドイツ国際平和村のボランティアが誕生しており、継続して行うことの大切さを実感している。

5.3. 日独軽乗交流 2025

コロナ過をはさみ、日独軽乗交流が2018年以来の再開となった。ポニースクールかつしかの子供達7名、通訳、カウンセラー、引率職員各1名の計10名が訪独し、現地の指導者に軽乗を学び、軽乗大会に出場、現地の子供達と交流を図った。

日本では経験したことがない動く木馬、慣れない馬の反動や、言葉の壁を乗り越え、身振り手振りで意思疎通を図りながら、一つの演技作品を作り上げていった。また、2泊3日のホームステイも行い、ドイツの生活や文化を肌で感じた。

一部助成金を活用したものの、円安等の影響で渡航費が大幅に上昇しているため、今後は寄付を募るなど資金調達を検討し、継続可能な事業としていきたい。



6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として各号2,500部を発行した。

また、新しいキャンプの情報や、各事業所におけるイベント情報・報告や、外部団体との連携事業などを積極的に取り上げ、幅広い情報発信を行った。

また、過去の機関紙の情報を有効活用できるよう、機関紙のデータベース構築を行った。

6.2. WEB広報

ホームページ(<https://harmonycenter.or.jp/>)とSNS(Facebook・Instagram)を利用した情報提供を行った。基本情報の提供だけでなく、キャンプやイベントの告知も積極的に行った。

Instagramについては各動物広場での運用も始まり、動物広場の存在をより身近に感じていただける広報への取り組みも進んでいる。引き続き、より多くの人にハーモニーセンターを知ってもらうため、イベント等の告知にとどまらず、より興味を持ってもらえるようなコンテンツ提供を模索していく。

7. その他

7.1. 規程変更と新設

法改正及び事業運営の実態に合わせて、就業規則、賃金規程、育児・介護休業規程、退職金規程を改正した。

7.2. 馬の管理

法人所有馬78頭のほか、板橋区が所有する8頭を管理受託。昨年同様、引退競走馬支援団体(TCC)より1頭、個人所有馬1頭を預託し、計88頭の馬を繋養した。この年度は、高齢馬6頭を引退させるとともに、1才～3才の若馬を5頭購入し、事業が滞ることないよう計画的に世代交代を進めている。これらの馬の管理業務は蓼科ポニー牧場を中心に、小貝川ポニー牧場とも役割分担をして、馬事部として法人全体で進めている。

ポニーステイ事業で伊那市立伊那小学校に貸していたポニーが、3年間の節目を迎え、帰厩した。また、多様な馬の利活用が広がる中、四国の農業高校より支援要請を受け、蓼科で生まれた若馬を譲渡。今後もこの領域におけるハーモニーセンターの役割を果たせるよう、意識して進めたい。

7.3. カウンセラー・職員等の研修

A. カウンセラー募集と研修

ボランティア募集サイトやホームページからの問合せを中心に、89名の新しいカウンセラーが登録してくれた。専門学校等の実習を目的としたカウンセラー登録が減ってきているため、新規登録者は微減となっているが、活動に継続して参加してくれるカウンセラーは着実に増えており、夏冬春休みキャンプの参加延べ人数

は昨年の150名から180名へ大幅に増えている。キャンプ、移動乗馬、研修会に積極的に参加してくれているだけでなく、広場キャンプなどにも参加する中で、受託事業担当職員との関係も築き、様々な事業において幅広く活動を支えてくれている。

また、事業に参加してくれる子供だけでなく、カウンセラーを保護するセーフガーディングの取り組みとして、カウンセラーの行動規範を定め、活動の誓約書を提出してもらう制度を開始した。

登録カウンセラー数

継続登録者数	新規登録者数	合計
80 名	89 名	169 名

B. 職員研修

研修委員会を中心に内容を検討し、以下の通り職員対象の研修を行った。

日程	主な内容	対象者
5月13日	団体理念と歴史・馬の取り扱い・接遇マナー	1・2年目職員
11月5日	個人情報保護・リスクマネジメント・コミュニケーション	20代後半職員
12月9日	団体理念と歴史・馬の取り扱い	1・2年目職員
12月16日	障がい者理解・カウンセラー理解・リスクマネジメント	3・4 年目職員
1月14日	団体の理解と個々の今後の役割	30代職員
2月10日	団体理念と歴史、今後の役割、役職者になるために	30代役職職員
2月25日	動物福祉の理解・リーダーシップ	40代以上職員

※馬の取扱については、各事業所で巡回研修を行った(蓼科ポニー牧場の項参照)

※このほかにも、担当事業に関連する外部研修に職員を積極的に派遣した。

7.4. 会議等

1. 理事会・評議員会等

第1回理事会 5月23日

第1号議案 2023年度事業報告及び決算承認の件

第2号議案 定時評議員会開催の件

第3号議案 ポニー譲渡の件

定時評議員会 6月14日

第1号議案 2023年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2回理事会 3月20日

第1号議案 2025年度事業計画書、予算書、新調達及び設備投資見込み承認の件

第2号議案 規程改正の件

第3号議案 特定費用準備資金積立の件

第4号議案 期末賞与支給の件

第5号議案 小貝川ポニー牧場閉場について

第6号議案 相馬ポニー牧場の貸借契約について

第7号議案 重要な使用人の選任の件

2. その他

新年互礼会	1月20日
入職式	4月1日
運営会議	4月2日・4月22日・5月28日・7月2日・7月24日・9月6日・10月1日・10月8日 11月5日・12月15日・12月17日・1月14日・1月21日・2月4日・2月17日・3月10日
施設長会議	4月22日・5月28日・7月2日・9月6日・10月8日・11月5日・12月17日・1月21日 2月17日・3月10日

7.5. 法人事務

円滑に法人運営が行えるよう、以下の事務を行った。

- (1) 事業執行管理
- (2) 経営管理
- (3) 人事労務管理
- (4) 会員管理
- (5) 寄付金・助成金事務
- (6) 渉外事務
- (7) 庶務

7.6. 賛助会員

賛助会員A 576 世帯
賛助会員B 110 名
賛助会員C 26 名



公益財団法人ハーモニセンターは、非営利組織の信頼の証である
「グッドガバナンス認証」(公益財団法人日本非営利組織評価センター)を取得しています。